



茨城ワイズメンズクラブ
2022 年度-2023 年度
2 月報 Vo 1.186
強調月間テーマ

TOF

THE Y'S MEN'S CLUB OF IBARAKI CHARTERED 2006



国際会長主題..... 「Let Your Shine」
アジア太平洋地域会長主題..... 「Be the light for change」
東日本区理事主題..... 「未来のために今、学びと気づきを！」
関東東部部長方針..... 「親睦を糧に、クラブライフの充実」
茨城クラブ会長主題..... 「原点回帰」

☆今月の聖句☆

あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。
(ルカによる福音書 6 章 36 節)

<例会プログラム>

と き:2024 年 2 月 9 日(金)
19:00~21:00(最大)
と ころ:筑波学園教会 教育会館
zoom によるハイブリッド開催
zoom によるリモート開催
司 会:熊谷光彦
開会挨拶と点鐘:熊谷光彦
ワイズソング:(リモート開催時はスキップ)
ワイズ信条:(リモート開催時はスキップ)
1、自分を愛するように隣人を愛そう
1、青少年のために YMCA に尽くそう
1、世界的視野をもって
国際親善をはかろう
1、義務を果たしてこそ
権利が生ずることをさとろう
1、会合には出席第一
社会には奉仕第一を旨としよう
今月の聖句・祈祷:熊谷光彦
協議:新年度役員体制、活動方針等
ハッピーバースデー &
おめでとう結婚記念日:
スマイル:(リモート開催時はスキップ)
茨城 Y M C A 報告:和田賢一
次月例会日程:1 日(金) or 8 日(金)?
閉会挨拶と点鐘:熊谷光彦

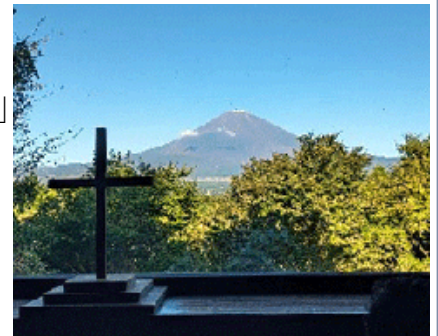
「STEP II 研修に行ってきました」

茨城 YMCA 伊藤信彦 (いとちゅう)

茨城 YMCA に入職して今年で 3 年目に入りました。
昨年は 9 月末から日本 YMCA スタッフ研修 STEP II に
送り出していただき、65 日間の研修を終えて 12 月初
旬に、無事茨城に戻ってきました。

行く前からバタバタしており『本当に行けるのか?』
と不安も多かったのですが、そーり(宮田総主事)をは
じめスタッフの皆様、半ば強引に送り出していただき、
研修に集中することができ、良き学びができたこと
を感謝しています。長期の研修という学びの機会を
通して、YMCA について徹底的に叩き込まれたという
のが率直な感想です。研修期間中は毎朝、総勢 12 人の

研修生と研修スタッフ、
講師の方も参加されて御
殿場の東山荘の「黙想館」
と呼ばれる富士山が目の
前に広がるチャペルで、
研修生が持ち回りで朝礼
拝を行って一日を始めま
した。12 人のうち、クリ



スチャンはわたしを含めて 3 人でしたが、全員が聖書
と向き合い、讃美歌を選び、共に讃美をするという時
間を共有できたことは大きな驚きであり、恵みでもあ
りました。YMCA が、その C を、いかに大切にしてい
るかをあらためて思う時となりました。

この研修の先には、日本 YMCA 主事資格審査に臨み、

主事論文をまとめ上げるといふ大きな課題が待っていますが、茨城YMCAに資する者となるために必要なハードルと受け止めて向かっていきます。これからもよろしくお祈りします。



【例会報告】

1月例会は、12日(金)の19時から21時まで、筑波学園教会の教育会館1Fをお借りして開催いたしました。この日のテーマは、今後の茨城クラブについて。次期の役員人事をどうするかだけでなく、茨城クラブをどうするかについて議論しました。

熊谷会長：今年度も含めて5年間会長をやってきました。会長としての役目の他に、メンバーの負担軽減のため、例会のセッティング、例会の食事準備、会計の実務、ブリテンの編集などを率先して引き受けてきた。また、部費や区費を期限までに納付するため、会費を先々まで前払いで納めることはもちろん、立て替え払いをかなり続けており、精神的にも負担になっている。

たとえばバザーにおいて、唐揚げを何kgも準備して販売して収益を上げたとしても、それは茨城YMCAのボランティア学生を支援するために使われるのではなく、自分の立て替え分を返してもらうためだと思うと虚しさを感じてしまう。

近い将来に関東東部の部長などの役員を務めなければならないことも頭が痛い。

YMCA、とくに茨城YMCAに対して貢献したい思いは強く、他の役目についてはこれまでの通り果たし続けたいが、ワイズメンズクラブについては、いったん会長を降りたいと考えている。

他の会員全員が休会し、正規メンバーが会長1人のみの状態であれば、事務負担が減るので、引き続き会長として茨城クラブを存続させるという選択肢はあるが、会員人数あたりの負担でなく1クラブあたり20,000円のリーダーズフォーラム分担金の工面がネックになる。

また、矛盾するようではあるが、いまの会長職としての負担を誰かに押し付けることもできないと思っている。

これまでに茨城クラブを去っていった皆さんの真の退会理由を、その都度考えるべきだったのではないかと。

村田書記：補足すると、これらの話は、熊谷会長と柳瀬会計と書記のわたしの3人で、ここ数カ月間、今後の茨城クラブをどうするかについて話し合ってきたことがベースにある。発端としては、茨城クラブ会員による会費ならびに茨城クラブがイベントを通じて稼ぐ資金の大半が上部組織に流れており、会員が入会時に持っていた「茨城YMCAのために奉仕をしたい」という思いから外れているという問題意識から発生したもの。一案として、部費と区費の負担を減らすために、形式上何人かに休会してもらい、正規メンバーを減らして茨城クラブを運営してゆくことも考えた。しかし、他クラブに対して申し訳が立たない(実際の会員数を偽る行為)と感じたため、そのような小手先対応はやめようということになった。本件については茨城YMCAの宮田総主事とも話し合いを持った。そのなかで、最終的に会長として前述の決断をされたものだと認識している。

大澤さん(あっとん)：連盟にてワイズに関わる役職についている立場から補足すると、上部組織への献金は、決して意義のない使い方をされているわけではなく、各種のお見舞金、支援金やユースボランティアの活動支援に充てられている。茨城YMCAのリーダー、スタッフもちろんその受益者である。一方で、ワイズメンズクラブがこのままの形であるべきなのか、という問題意識は連盟のなかでワイズメンズクラブに関わる仕事をしている職員たちも、持っている。

最終的に茨城クラブがどのような形を取るかは、みんなで決めればよいし、決めた答えが正解だと思う。自分の立場を勘案しても、続けたほうが良いとむやみに言うものでもないとも思っている。

ワイズメンズクラブの名を冠する以上は、区費、部費を払うことは前提。払わない状態で名前を使い続けることはできない。来期の形をどうするか。3月には次期会長研修などもあるが、6月までに最終形を決めればそれでよいと個人

的には考えている。

熊谷裕子さん（会長のおつれあい）：近くで長年家族として見てきた身としては、このへんで終わりにしてあげたい、肩の荷を下ろしてもらいたいという思いがある。

稲本副会長：せっかくここまで続けてきたものでもあるし、終わりにしてしまうのはしのびないと考えている。なんとか続けられる形はないものか。

村田書記：自分のことを、このタイミングで考えてみた。自分自身、まだ働き盛りで仕事も正念場、加えて子どもの少年野球の活動で負担が大きくなった。そのようなことからいったん、来期から3年間は茨城クラブの活動をお休みしたいと考えている。どういう形で外れるのかはまだ決めることができていないが、少なくとも役職は外れたい。

熊谷さんには様々な面で負担をかけてきて申し訳ない。熊谷さんの負債をきれいにするのは大前提だと考えているし、茨城 YMCA に対して奉仕したい貢献したいという思いを強く持ちながら疲弊してしまっているということを受け止めて、いったんこのような茨城クラブの形を終わりにするのもひとつだと考えている。

金銭の問題というよりも、主要メンバーが疲れ切ってしまったということの方が重いと思う。

《ワイズに関わる質疑応答（質問者は省略、回答のみ以下概要）》

- ・他ワイズと比べて茨城の会費（2,000 円/月）はかなり安い水準と考えられる。設立時に、会員を増やすために会費をこの額に設定にしたとのこと。もともとこの額の会費では、財政がひっ迫するのは目に見えていたはず。しかし若い新規会員を増やすためには、会費を低く抑える必要があることも事実。
- ・茨城ワイズの財政については、会員を増やしたからといって改善するものではない（会員が増えても、人数割で部費や区費も増えるため）。
- ・その場しのぎ的な解決策としては、会費の増額が考えられる（しかし前述したように、会費アップは既存会員の負担が増えるだけで、若い新規会員の獲得にはつながらない）。
- ・他クラブでは、会員に経営者なども多いと聞く。メンバーの顔ぶれ、クラブを運営する目的も、茨城クラブとはやや違っているのかもしれない。

い。

・茨城クラブをやめる（休止する？廃止する？）となると今後は、どのような形で活動することになるのか？→「おやじの会（学童の保護者たちによる支援団体）」のように、勝手連（勝手に連帯するグループ）のような形での茨城 YMCA の活動をサポートする団体になるのか？

今回、次期役員人事につきましては、決めることができませんでした。また、今後の茨城クラブの在り方についても、結論を出すことはできませんでした。

1 月例会出席状況

会員:6 名(伊藤信彦、大澤篤人、熊谷光彦、村田淳、稲本修一、和田賢一)、ゲスト 2 名(堀切多絵子、熊谷裕子)、スタッフ:1 名(大澤秋太郎)、リーダー:0 名、出席総数:9 名、在籍者会員数:11 名、会員出席率:55%

(書記 村田)

【チャリティーコンサート】

ウクライナから日本に逃れてきた最初の 1 人を、日本 YMCA 同盟が受け入れて支援を始めたのは 2022 年 3 月でした。その後、来日渡航支援や来日後の生活・自立支援、そして見守りに取り組んできました。2023 年月末までに 1,500 人を超える人々の支援にあたっています。



その活動を支援するため茨城 YMCA は、2024 年 1 月 13 日(土)に、つくば市のノバホールにおいてウクライナ出身のオクサーナ・ステパニユックさんをお迎えしてチャリティーコンサートを行いました。茨城 YMCA の活動を支援する多くの皆さんが訪れ盛大なコンサートとなりました。

(副会長 稲本)

【事務報告】

会計報告 (1月12日～2月9日)

前月繰越金	¥12,272-
例会食事材料費	△¥3,000-
スマイル等	¥4,750-
寄付献金	△¥1,000-
チャリティーラン参加費	¥4,000-
会費	¥90,000-
寄付献金	¥6,000-
借入金返済	△¥18,000-
次月へ繰越	¥95,022-

会員のみなさまにおかれましては、会費の前納にご協力を賜りたく願います。

(会計 柳瀬)

【茨城 YMCA 報告】**1月の報告**

- 3日 YMCA 休館
- 6日 ウィンタースクール
- 9日 幼保園3学期開始
- 13日 茨城 YMCA 創立30周年記念チャリティーコンサート
- 14日 小学生ディキャンプクラブつくわい
- 14日 中高生ディキャンプクラブユース
- 16-23日 みらいへグール
- 18日 主任会
- 20日 放課後等ディサービスひかりの子チャレンジトリップ
- 20日 障がい児者自立支援たんぽぽクラブ
- 23日 職員礼拝・職員会
- 27日 つくば市児童館ドッジボール交流大会
- 27日 ひかりの子第4回チャレンジトリップ
- 27-28日 全国アフタースクール部会(茨城開催)
- 27-28日 ゆきだるまキャンプ

2月の予定

- 1日 幼保園新入園児オリエンテーション
- 3日 全体職員会
- 4日 高学年ディキャンプクラブトムソーヤ
- 5日 早天祈祷会
- 17日 みどりのセンター児童クラブ保護者会、新入生説明会
- 17日 東新井センター児童クラブ新入生説明会
- 17日 牛久センター児童クラブお出かけプログラム
- 17日 幼児ディキャンプクラわんぱく
- 20日 主任会
- 21日 ピンクシャツデー街頭アピール
- 23-25日 はじめの一步スキーキャンプ
- 28日 ピンクシャツデー

(連絡主事 和田)

いざ立て

ONCE MORE WE STAND

(フィンランディア) より

淵田多穂理 訳詞

Words by Presu. Emeritus Paul Wm. Alexander

1. いざたて、こころあつと
 2. うたえば、こころひと
 1. Once more we stand, New zeal our hearts im
 2. As now we sing, In com-rade -ship more

くし — 手をあげち かいあら
 つに — ともがきひ ろがりゆ
 bu ing; — ; we raise our hand, Our ser - vice pledge re -
 bind ing; — ; Our love we bring, Re - ward in friend - ship

たに われらのモットーまもる
 きて とおきもちかきもみな
 new-ing, Ne'er-to de - ny our — mot - to's — claim
 find-ing. To ev'-ry Y's men — far. and — near

— ふさわし、そのなワイズメン
 — ささげて、たつやワイズメン
 — Y's men in Fact as well — as name.
 — we pledge de vo tion most — sin cere.

たえせず、めあてのぞみ
 さかえと、ほまれゆたか
 Al - ways our ob - jects — to pur — sue
 Glo - ry and pride Y's — men to — be

— こみをは ささげつくさん。
 — まことはむねにあふれん。
 — we con - se - crate our selves. — anew.
 — Fill ev'-ry heart with loy - al - ty.